

種類	用途	成分名	成分の説明
水溶性成分	水性基剤・保湿成分	エタノール	保湿成分として使用されるが皮膚への刺激がある他にも、過敏症や蒸発(揮発)によって肌を乾燥させるという欠点がある。
		PG (プロピレングリコール)	古くから保湿成分として多用されてきたが脂溶性が高く肌への浸透による刺激が懸念されたため昨今では配合が控えられている。
		DPG (ジプロピレングリコール)	安価な商品に多用される保湿成分だが、目や肌への刺激の懸念が指摘されている。(特に目への刺激が強いという報告が多い。)防腐性がある。
		エチルヘキシルグリセリン	防腐性を持つ保湿成分で、無防腐剤の化粧品に高濃度で配合されることが多い。配合量が多い場合は皮膚への刺激も懸念される。
		カプリリルグリコール	
		1,2-ヘキサンジオール	
		ベンチレングリコール	
		プロパンジオール	保湿成分の一種。刺激性に関する情報が少なく不安要素が多い。
		グリセリン	保湿性が強いので化粧品の主成分によく使われる。皮膚への刺激やアレルギー性が弱く、使用感は比較的「しっとり」。
		ジグリセリン	グリセリンとよく似た性質の保湿成分。低刺激の化粧品に配合される。
	BG (1,3-ブチレングリコール)	グリセリンと同じく低刺激の保湿成分で、敏感肌用化粧品の主成分に多用される。使用感は「さっぱり」。	
	機能性水性成分	ヒアルロン酸Na	ムコ多糖類(動物性保湿成分)の一種。水を混ぜるとジェル化して水分を蓄える性質がある。代表的な皮膚表面の保湿成分。
		アセチルヒアルロン酸Na	
		加水分解ヒアルロン酸	
		コラーゲン	繊維状タンパク質の一種で肌の中では皮膚の土台を作っている。化粧品に配合された場合は皮膚表面で水分を蓄える保湿剤となる。
		加水分解コラーゲン	
		サクシニルアテロコラーゲン	
		加水分解エラスチン	
		ベタイン	アミノ酸の一種で水分と馴染みやすく保湿成分として使われる。
		グルタミン酸Na	
		アミノ酸類	アスパラギン酸・アラニン・アルギニン・グリシン・セリン・ロイシン・ヒドロキシプロリン…など。ベタインやグルタミン酸と同様アミノ酸の性質から水分と馴染みやすく保湿成分として多用される。
		トレハロース	糖類の一種で水分と馴染みやすく保湿成分として多用される。基本的に低刺激で肌への安全性は高い。
		グルコシトレハロース	
		スクロース	
		ソルビトール	
		加水分解水添デンプン	
		ハチミツ	
メチルグルセス類			
ポリクオタニウム-51	「リピジュア」と呼ばれる成分で高い保湿作用を持つ。		
カルボマー	合成ゲル化剤の一種で水分を蓄えてジェル化させる性質を持つ。安全性の高い増粘剤として使用される。		
キサンタンガム	食品にも使われる増粘剤で、デンプンを微生物の力で発酵させたもの。その発酵過程で思わぬ不純物が混ざる可能性も。		
油性成分	油性基剤	ミネラルオイル	炭化水素油の一種で石油由来のオイル。低刺激で安価な原料だが、クレンジングの主成分にすると脱脂能力が強すぎるのが難点。
		スクワラン	炭化水素油を主成分とした植物性のオイル。低刺激な保護油として化粧品に広く使用されている。ピュアオイルをスキンケアに使うことも出来る。
		ワセリン	ミネラルオイルと同じく石油由来の炭化水素油。半固形状の脂で水分蒸発を防ぎ、低刺激なので、乾燥肌の皮膚の保護によく使われる。
		マイクロクリスタリンワックス	合成ワックスだが主成分は炭化水素油。様々なメイクアップ化粧品やヘアワックス等の主成分となっている。
		水添ポリイソブテン	撥水性の高いオイルでウォータープルーフ系メイク製品に多用される他、ウォータープルーフ用メイクアップリムーバーの主成分として利用される。
		ジメチコン	鎖状シリコンの一種で皮膚能力の高いシリコンオイル。重めのトリートメントの基剤やメイクアップ製品に利用される。やや残留しやすい点に注意。
		アモジメチコン	
		ビスアミノプロピルジメチコン	
		シクロペンタシロキサン	環状シリコンの一種で比較的皮膚力が低いシリコンオイル。揮発性が高くサラツとした使用感になる。残留性は低め。
		シクロメチコン	
	トリエチルヘキサノイン	合成エステルオイル。人工的に作られたオイル成分で安全性・安定性が高く様々な化粧品基剤に用いられている。クレンジング基剤になると脱脂力は高め。	
	エチルヘキサン酸セチル		
	ミリスチン酸オクチルドデシル		
	イソノナン酸イソノニル		
	ラノリン	動物性のエステルオイル。純度によってアレルギー性が懸念される為最近あまり使用されなくなった。	
	セタノール	高級アルコール系のオイルで、ベタつきの少ない皮膚形成剤として使用される。アレルギーの懸念がある。	
	ステアリアルアルコール	高級脂肪酸の一種で、軽い質感の油分だが高濃度だと皮膚への浸透性が高く刺激性が懸念される。石けんの原材料でもある。	
	ステアリン酸		
	パルミチン酸		
	ミリスチン酸		
油性成分	オリーブオイル	油脂の一種で主成分の脂肪酸の組成によって様々な性質になる。ここにあるオレイン酸を多く含む油脂の場合肌なじみが良く柔軟作用がある。不純物として含まれるビタミン類の組成によって抗酸化力に優れた油脂となる。また多価不飽和脂肪酸のリノール酸やリノレン酸を多く含む油脂は酸化しやすいため注意。	
	馬油		
	アルガニアスピノサ核油		
	コマカ油		
	マカダミアナッツ油		

機能性油性成分	ココナッツ油	多くの化粧品成分の主原料となっている油脂(ココヤシ油)。安定性が高く使い勝手は良いが飽和脂肪酸を基本とする為肌への柔軟作用などは弱い。
	ホホバ油	主成分はロウ類だが油脂のように脂肪酸も含む植物性のオイル。皮膚の天然保湿成分とよく似た組成のため、高精製されたホホバ油は肌の保湿剤としてよく使用される。
	セラミド1/セラミドEOS	ヒト型セラミド。人皮膚上に存在するバリア機能物質で、外部の乾燥や刺激から皮膚を守る働きをしている。アトピー肌、敏感肌、加齢肌にはセラミドが不足しているというデータがあり、外部補給することで肌のバリア機能を補うことが可能。
	セラミド2/セラミドNS	
	セラミド3/セラミドNP	
	セラミド6Ⅱ/セラミドAP	
	セラミド9/セラミドEOP	
	セラミド10/セラミドNDS	
	ヘキサデシロキシPGヒドロキシエチルヘキサデカナミド(セチルPGヒドロキシエチルパルミタミド)	擬似セラミドの一種。人間の肌の角質層にあるセラミドと似た働きをする成分。外部から補うことで肌のバリア機能を高めることができる。
	ラウロイルグルタミン酸ジ(フィトステリル/オクチルドデシル)	擬似セラミドの一種。長年、幅広いメーカーの商品に使用されており、安全性と実用性に定評がある
	コメヌカスフィンゴ糖脂質	コメから得られる糖セラミド(グルコシルセラミド)を含むセラミド類似体。糖セラミドはセラミドの前駆体でありセラミドに似た働きをする。
	ウマスフィンゴ脂質	馬油から少量得られる糖セラミド(ガラクトシルセラミド)を含むセラミド類似体。糖セラミドはセラミドの前駆体でありセラミドに似た働きをする。
	マカダミアナッツ脂肪酸フィトステリル	人間の皮脂に組成の近い油分の誘導体。肌や髪に浸透しやすく柔軟性を与えることが出来る。
洗浄剤	石けん素地	代表的な石けん。成分表に『～酸+グリセリン+水酸化Na(水酸化K)』と表記されている場合もある。洗浄力が高く使用感の良い洗剤。分解しやすく残留しにくい。アルカリ性なので洗浄中に刺激になることも。オレイン酸系の方が比較的低刺激。
	ラウリン酸Na	
	オレイン酸Na	
	カリ石鹼素地	
	オレイン酸K	
	ラウリル硫酸Na	敏感肌への刺激が強く皮膚残留性も高い点が問題視される合成洗剤。化粧品に使用される界面活性剤で最も避けたい成分。
	ラウレス硫酸Na	ラウリル硫酸Naを改良して作られた洗剤で、刺激性と残留性はかなり抑えられているがそれでも敏感肌には向かない成分。
	オレフィン(C14-C16)スルホン酸Na	ラウレス硫酸Naの代わりに最近多用される洗浄成分だが、高い脱脂力と敏感肌への刺激性はさほど変わらない。
	ラウレス-5-カルボン酸Na	通称「酸性石けん」。石けんと似た構造を持ち環境に優しく、弱酸性でも十分な洗浄力を発揮するうえ低刺激性の洗浄成分。
	ココイルメチルタウリンNa	タウリン系洗浄成分の一種で比較的低刺激で高めの洗浄力を有する。
	ラウロイルメチルアラニンNa	弱酸性のアミノ酸系界面活性剤。低刺激という点では特に優秀で、洗い上がりは比較的しっとりする。
	ココイルグルタミン酸TEA	アミノ酸系界面活性剤の一種で、洗浄力は穏やかで低刺激性。敏感肌向けの洗浄成分。
	ココamidプロピルベタイン	両性イオン界面活性剤の一種で、特に低刺激の洗浄成分。ベビーソープや低刺激シャンプーに配合される。陰イオン界面活性剤の刺激を緩和する効果がある。
	ココアンホ酢酸Na	極低刺激性の両性イオン界面活性剤の一種で、敏感肌・アトピー肌でも使いやすい。
	ラウリルグルコシド	非イオン界面活性剤の一種で成分自体は低刺激だが、脱脂作用が強いためシャンプーの洗浄力が上がる。食器用洗剤の助剤にも使われる。
	トリスステアリン酸PEG-20グリセリルジステアリン酸PEG-150	非イオン界面活性剤の一種でクレンジングの乳化剤として用いられる。シャンプーに配合するとクレンジング作用を付与できる。
	柔軟剤	ベントリモニウムクロリド
ステアリルトリモニウムクロリド		
セトリモニウムクロリド		
ステアラミドプロピルジメチルアミン		陽イオン界面活性剤の一種だが比較的低刺激の成分。
ベヘナミドプロピルジメチルアミン		
ポリクオタニウム-10	カチオン化ポリマーの一種で、リンスインシャンプーのリンス成分である。毛髪に吸着してしっとり感を演出する。配合量が多いと質感がごわついてしまう。	
乳化剤	ジメチコンコポリオール	シリコンに親水性の構造を取り付けたシリコン系界面活性剤で、低刺激性でヘアケア製品などに配合してサラサラ感やしっとり感を演出することが可能。
	ジメチコノール	
	水添レシチン	非イオン系界面活性剤の一種で、生体適合性界面活性剤。低刺激の化粧品の乳化や、リボソーム用の界面活性剤として利用されている。
	ポリソルベート類	非イオン系の乳化剤。巨大な分子量の物が多く皮膚への刺激も極微弱である。主にクリームや美容液などの塗り置き化粧品の配合されている。合成して作られる物が基本だが配合量も少なく皮膚への負担はほぼ無い。
	テトラオレイン酸ソルベス-30	
イソステアリン酸ソルピタン類		
ステリン酸グリセリルPEG-水添ヒマシ油類		
界面活性剤	石けん素地	代表的な石けん。成分表に『～酸+グリセリン+水酸化Na(水酸化K)』と表記されている場合もある。洗浄力が高く使用感の良い洗剤。分解しやすく残留しにくい。アルカリ性なので洗浄中に刺激になることも。オレイン酸系の方が比較的low刺激。
	ラウリン酸Na	
	オレイン酸Na	
	カリ石鹼素地	
	オレイン酸K	
	ラウリル硫酸Na	敏感肌への刺激が強く皮膚残留性も高い点が問題視される合成洗剤。化粧品に使用される界面活性剤で最も避けたい成分。
	ラウレス硫酸Na	ラウリル硫酸Naを改良して作られた洗剤で、刺激性と残留性はかなり抑えられているがそれでも敏感肌には向かない成分。
	オレフィン(C14-C16)スルホン酸Na	ラウレス硫酸Naの代わりに最近多用される洗浄成分だが、高い脱脂力と敏感肌への刺激性はさほど変わらない。
	ラウレス-5-カルボン酸Na	通称「酸性石けん」。石けんと似た構造を持ち環境に優しく、弱酸性でも十分な洗浄力を発揮するうえ低刺激性の洗浄成分。
	ココイルメチルタウリンNa	タウリン系洗浄成分の一種で比較的低刺激で高めの洗浄力を有する。
	ラウロイルメチルアラニンNa	弱酸性のアミノ酸系界面活性剤。低刺激という点では特に優秀で、洗い上がりは比較的しっとりする。
	ココイルグルタミン酸TEA	アミノ酸系界面活性剤の一種で、洗浄力は穏やかで低刺激性。敏感肌向けの洗浄成分。
	ココamidプロピルベタイン	両性イオン界面活性剤の一種で、特に低刺激の洗浄成分。ベビーソープや低刺激シャンプーに配合される。陰イオン界面活性剤の刺激を緩和する効果がある。
	ココアンホ酢酸Na	極低刺激性の両性イオン界面活性剤の一種で、敏感肌・アトピー肌でも使いやすい。
	ラウリルグルコシド	非イオン界面活性剤の一種で成分自体は低刺激だが、脱脂作用が強いためシャンプーの洗浄力が上がる。食器用洗剤の助剤にも使われる。
	トリスステアリン酸PEG-20グリセリルジステアリン酸PEG-150	非イオン界面活性剤の一種でクレンジングの乳化剤として用いられる。シャンプーに配合するとクレンジング作用を付与できる。
	柔軟剤	ベントリモニウムクロリド
ステアリルトリモニウムクロリド		
セトリモニウムクロリド		
ステアラミドプロピルジメチルアミン		陽イオン界面活性剤の一種だが比較的低刺激の成分。
ベヘナミドプロピルジメチルアミン		
ポリクオタニウム-10	カチオン化ポリマーの一種で、リンスインシャンプーのリンス成分である。毛髪に吸着してしっとり感を演出する。配合量が多いと質感がごわついてしまう。	
乳化剤	ジメチコンコポリオール	シリコンに親水性の構造を取り付けたシリコン系界面活性剤で、低刺激性でヘアケア製品などに配合してサラサラ感やしっとり感を演出することが可能。
	ジメチコノール	
	水添レシチン	非イオン系界面活性剤の一種で、生体適合性界面活性剤。低刺激の化粧品の乳化や、リボソーム用の界面活性剤として利用されている。
	ポリソルベート類	非イオン系の乳化剤。巨大な分子量の物が多く皮膚への刺激も極微弱である。主にクリームや美容液などの塗り置き化粧品の配合されている。合成して作られる物が基本だが配合量も少なく皮膚への負担はほぼ無い。
	テトラオレイン酸ソルベス-30	
イソステアリン酸ソルピタン類		
ステリン酸グリセリルPEG-水添ヒマシ油類		